



10月27日~11月9日 読書週間

2024年 読書週間 標語

「この一行に逢いにきた」



〈作者（中山実穂さん）のことば〉

本の中にグッとくる一行があって、何度も何度も目でなぞり、ついには暗記してしまう。作者はこの一行のためにこの本を書いていて、読者はこの一行に出逢うため読んでいるのだと思うとき、幸福になる自分があります。

今年で78回目を迎える「読書週間」は、毎年「10月27日 読書の日」を初日として、11月9日までの「文化の日」を中心とした2週間となっています。

「読書週間」は、1947年に、日本ではじまりました。終戦から2年後、戦火の傷跡が各地に残っていた当時の日本を「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意をもとに開催されました。

それから78年、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国」となりました。

しかしながら、近年、電子メディアの発達や普及により、子ども達の「読書離れ」が心配されています。4月23日から5月12日の「こども読書週間」と共に、今年の「読書週間」も、多くの子ども達の読書への関心を高めるために、読書習慣の定着の機会となる催しや働きかけを学校や家庭、地域においても行って欲しいものです。

また、各学校におかれましては、来月の読書週間に向けて、図書委員会等の子ども達と共に、計画や準備をお願いします。さらに、小学校におかれましては、7月号でもお知らせしました「福岡市 小学生読書リーダー養成講座」への取り組みも併せて、お願いします。

「読書の秋」

秋には、「食欲の秋」「スポーツの秋」「勉強の秋」。そして、「読書の秋」とさまざまな「秋」があります。

暑い夏が終わり、気候も落ち着つき、何事にも、取り組みやすい時期を迎えることや、作物や果物が実りの時期を迎えることに由来していると考えられます。

また「読書の秋」という言葉は、8世紀頃、唐王朝の時代に活躍した中国の韓愈(かんゆ)という詩人が、自著「符読書城南詩」のなかに記した

時秋積雨霽	秋の長雨もやみ、空が晴れ
新涼入郊墟	涼しさが丘陵にも広がっている。
燈火稍可親	ようやく夜の灯に親しんで
簡編可卷舒	書物を広げられる

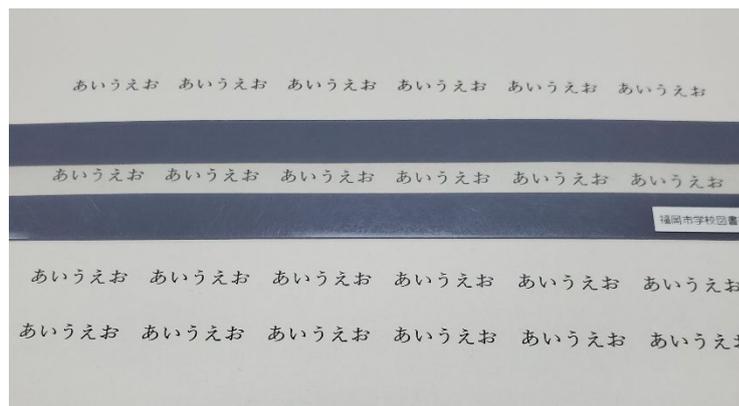
という詩に由来するとともに、いわれています。

「秋の夜はつるべ落とし」とも言われるように、昨日の22日「秋分の日」を境に、少しずつ夜の長さが伸びるとともに、日の入りの早まりを感じるようになります。

(福岡市では、11月の終わり頃に、日の入りが1番早くなり、17:10頃となります。)

過ごしやすい気候、長い夜、静かに読書を楽しむには、まさにベストシーズンといえるでしょう。秋の夜長、虫の声を聴きながら、本を開くのもよいのではないのでしょうか。

「リーディングトラッカー」



8月20日(火)福岡市立の全校種の学校図書館担当者と学校司書を対象とした連絡会が開催され、その会において、発達教育センターの主任指導主事より、リーディングトラッカーの紹介がありました。

このリーディングトラッカーとは、様々な理由により読み書きが苦手な方の読書をサポートする道具の1つです。

使い方は簡単で、自分の読みたい所にリーディングトラッカーを当て、読みたい部分を鮮明にして、文章の読解に集中することができるようにするものです。

ここ数年、学校図書館にリーディングトラッカーを準備している学校は、増えてきています。今後も、リーディングトラッカーの準備や、読み書きが苦手な子ども達への道具の紹介等を進めていかなければならないと考えています。



10月のことと人

10.14 鉄道の日

1872(明治5)年10月14日、(旧暦9月12日)新橋～横浜間に日本初の鉄道が開通しました。歩くと1日かかった新橋～横浜間を53分で走ったそうです。

「やえもん」の愛称で知られる1号機関車は現在、東京の交通博物館にあります。

10.15～21 新聞週間

一般社団法人・日本新聞協会が、1948年(昭和23年)から実施。「新聞週間」は、新聞界のメインイベントであり、より多くの人に新聞の重要性を知らせ、新聞と読者の結び付きを強化することなどを目標として実施されている。

香山 美子 (1928.10.10～)

東京都生まれ。児童文学作家・絵本作家、詩人。日本児童文学者協会評議委員。

1963年、『あり子の記』でNHK児童文学奨励賞、日本児童文学者協会賞を受賞。絵本「どうぞのいす」、作詞「げんこつやまのたぬきさん」など、有名である。

オトフリート・プロイスラー

(1923.10.20～2013.2.18)

チェコスロバキア生まれ。ドイツの児童文学者。代表作に1962年に初稿が発表された『大どろぼうホツェンプロツツ』、『クラバート』などがある。本国ドイツをはじめ世界各国で多くの文学賞を受賞している。

江戸川乱歩 (1894.10.21～1965.7.28)

三重県名張市生まれ。日本の推理作家、怪奇・恐怖小説家。日本推理作家協会初代理事長。ペンネームは小説家のエドガー・アラン・ポーに由来する。少年探偵団シリーズは子ども達から絶大な支持を受け、昭和30年代頃から映像化された。

末松 氷海子 (1937.10.22～)

兵庫県芦屋市生まれ。日本のフランス児童文学の研究者、翻訳家。「家なき子」「青い鳥」「十五少年漂流記」「美女と野獣」「長ぐつをはいたネコ」など、多くの著名な本の翻訳を行っている。

今月は、ひとりぼっちのうさぎにお友達ができるお話を紹介します。

『だんまりうさぎとおしゃべりうさぎ』 安房 直子／作 ひがし ちから／絵
偕成社(2015年) ¥1400(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆★ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校 ☆☆☆ 一般 ☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

だんまりうさぎは働き者で、一生懸命、畑で働くので秋には一人では食べきれないほどの野菜がとれます。だんまりうさぎは誰かと一緒に食べたいと思うけど、一緒に食べてくれる友達は一人もいません。ある日、だんまりうさぎの元に赤いスカートのうさぎ、おしゃべりうさぎがやってきて、おもちと野菜を交換してほしいとお願いされます。

<子どもに手渡す時のポイント>

引っ込み思案なだんまりうさぎが、元気で社交的なおしゃべりうさぎの力を借りながら、ほかの友達とも交流していくお話です。自分のペースでやればいいんだよ、と力がもらえる作品です。

1冊に2つのお話が入っており、挿絵も豊富なので、本を読み慣れていない子にもおすすめです。この本の続編として、「だんまりうさぎときいろいかさ」「だんまりうさぎとおほしさま」「ゆきのひのだんまりうさぎ」が出版されています。この本が気に入った子に、是非、お勧め下さい。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみて下さい。